

平成27年度病虫害発生予察予報第4号（7月）

平成27年7月3日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
早期稲	いもち病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ	平年並～やや多(西)、 <u>多(東、中央、中西)</u> 少(東、中西)、 <u>多(中央、西)</u> 少(東、中央、西)、平年並(中西) 少(県下全域)
普通期稲	いもち病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ	やや少(東)、 <u>多(中央、中西、西)</u> 少(東、中西)、 <u>多(中央、西)</u> 少(東、中央、西)、やや少(中西) 少(県下全域)
かんきつ類(温州みかん)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	やや少(中央) <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 平年並(中央) 平年並(中央)
かんきつ類(中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(中央、中西、西)</u> 、平年並(東) <u>多(中央)</u> 、平年並～やや多(東、中西、西) <u>多(東、中央、中西)</u> 、平年並～やや多(西) <u>やや多～多(東、中央、中西)</u> 、平年並(西) <u>多(西)</u> 、平年並(中央)、少(東、中西)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 7 月 2 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 7 月 4 日から 8 月 3 日

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は、平年並または低い確率ともに 40％です。降水量は、多い確率 50％です。日照時間は平年並または少ない確率ともに 40％です。

週別の気温は 1 週目は低い確率 70％です。2 週目は平年並または高い確率ともに 40％です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	40	40	20
		降水量	20	30	50
		日照時間	40	40	20

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	70		20 10
2 週目		20	40	40
3 ～ 4 週目		30	40	30

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：7 月 4 日（土）～ 8 月 3 日（月）

1 週目：7 月 4 日（土）～ 7 月 10 日（金）

2 週目：7 月 11 日（土）～ 7 月 17 日（金）

3 ～ 4 週目：7 月 18 日（土）～ 7 月 31 日（金）

II 病虫害発生予想

1 早期稲の病虫害

1) いもち病

予 想 発生量：平年並～やや多（西部）、多（東部、中央部、中西部）

根 拠

(1) 6 月の調査では、県下全域で発生が確認されており、進行型病斑が見られるほ場も多かった。

(2) 向こう 1 か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量も多めと予想されているため、多発傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 進行型病斑が見られるほ場では、穂いもちへの移行を防ぐため、出穂期、穂揃期に薬剤防除を行う。

(2) 本県での発生は確認されていないが、他県では QoI 剤の耐性菌が確認されている。QoI 剤耐性菌発生を防止するため、これらの剤の使用回数は作期を通じて 1 回以内

とする。

(3)窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：少（東部、中西部）、多（中央部、西部）

根 拠

(1) 6月の調査では、県東部、中西部では目立った発生は見られなかった。県中央部、西部では発生面積が多めであるが、密度の高いほ場は見られなかった。

対 策

(1)萎縮病の発生は確認されていないため、低密度時の防除は必要ないが、今後、密度が高まると、実入りが悪化することがあるので注意する。

3) セジロウンカ

予 想 発生量：少（東部、中央部、西部）、平年並：（中西部）

根 拠

(1) 6月の調査では、県下全域で発生が確認されたが、密度の高いほ場は見られなかった。

対 策

(1)セジロウンカはトビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫であるため、ほ場内での発生に注意し、多飛来があった場合には、産卵痕や吸汁により生育被害が出るので防除を行う。

4) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 6月の調査では県中央、中西部、西部で発生が確認されたが、密度の高いほ場は見られなかった。

対 策

(1)本虫による直接被害は少ないと思われるが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

2 普通稲の病害虫

1) いもち病

予 想 発生量：やや少（東部）、多（中央部、中西部、西部）

根 拠

(1) 6月の調査では、県下全域で発生が確認された。進行型病斑が見られるほ場も多く、県中西部ではずりこみ症状も見られていた。

(2)向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量も多めと予想されているため、多発傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)進行型病斑が見られるほ場では、速やかに防除を行う。

(2)本県での発生は確認されていないが、他県ではQoI剤の耐性菌が確認されている。QoI剤耐性菌発生を防止するため、これらの剤の使用回数は作期を通じて1回以内とする。

(3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：少（東部、中西部）、多（中央部、西部）

根 拠

(1) 6月の調査では、県東部、中西部では目立った発生は見られていない。県中央部、西部では発生面積が多めの発生であるが、密度の高いほ場は見られていない。

対 策

(1) 萎縮病の発生は確認されていないため、低密度時の防除は必要ないが、今後、密度が高まると、実入りが悪化することがあるので注意する。

3) セジロウンカ

予 想 発生量：少（東部、中央部、西部）、やや少：（中西部）

根 拠

(1) 6月の調査では、県下全域で発生が確認されたが、密度の高いほ場は見られなかった。

対 策

(1) セジロウンカはトビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫であるため、ほ場内での発生に注意し、多飛来があった場合には、産卵痕や吸汁により生育被害が出るので防除を行う。

4) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 6月の調査では県東部以外の地域で発生が確認されたが、密度の高いほ場は見られなかった。

対 策

(1) 本虫による直接被害は少ないと思われるが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

5) その他の病虫害

6月の巡回調査では確認されていないが、九州地方ではトビイロウンカの飛来が確認されているので注意する。

3 カンキツ（温州みかん）の病虫害

1) そうか病

予 想 発生量：やや少（中央部）

根 拠

(1) 6月の調査では少発生であった。

(2) 向こう1ヶ月は曇雨天が多いと予想されているため、発生面積が増加すると考えられる。

対 策

(1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

(1) 6月の調査では平年並の発生であった。

(2) 向こう1ヶ月は曇雨天が多いと予想されているため、発生面積が増加すると考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2)

前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

(1) 6月の調査では発生面積は多めだが、発病程度の高いほ場は見られなかった。

(2) 向こう1ヶ月は曇雨天が多いと予想されているため、多発傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

(1) 6月の調査では発生面積は平年よりやや少なめで、寄生密度の高いほ場も見られなかった。

(2) 気温の上昇に伴い増殖が盛んになると考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の回避を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

(1) 6月の調査では、ほ場での発生は殆ど見られないが、フェロモントラップには継続的に誘殺されていた。半旬毎の誘殺数にばらつきはあるが、6月の誘殺数は平年並であった。

対 策

(2) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

2 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（中央部、中西部、西部）、平年並（東部）

根 拠

- (1) 6月の調査では県中央部、中西部、西部で発生面積は多めだが発病程度は平年並、県東部では平年より少なめの発生であった。
- (2) 向こう1ヶ月は平年に比べ曇雨天が多い予想されているため、発生面積が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）、平年並～やや多（東部、中西部、西部）

根 拠

- (1) 6月の調査では県中央部で発生面積が多め、県東部、中西部、西部では平年並であった。
- (2) 向こう1ヶ月は平年に比べ曇雨天が多いと予想されているため、発生面積が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多（東部、中央部、中西部）、平年並～やや多（西部）

根 拠

- (1) 6月の調査では県東部、中央部、中西部で発生面積が多め、西部では平年並の発生であった。
- (2) 向こう1ヶ月は平年に比べ曇雨天が多いと予想されているため、発生面積が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや多～多（東部、中央部、中西部）、平年並（西部）

根 拠

- (1) 6月の調査では発生面積は県中西部でやや多め、県東部、中央部、西部では平年並～やや少なめの発生であったが、県中央部の一部では寄生葉率が90%を超えるほ場も見られた。
- (2) 気温の上昇に伴い増殖が盛んになると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の回避を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：多（西部）、平年並（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

(1) 6月の調査ではほ場での発生は殆ど見られないが、フェロモントラップには継続的に誘殺されていた。誘殺数（本年6月/平年）は県東部（41/81）、中西部（93/375）中央部（278/299）、西部（864/302）であった。

対 策

(1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

こうち農業ネットサービス※

・携帯電話を使った病害虫関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（Iモード）

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：（ヤフー）

①病害虫発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります